

原点は故郷で過ごした日々

日本を代表する山岳写真家であり、高山蝶ちやうの研究者としても高い評価を得た故田淵行男さんは、文筆家でもありました。生まれ故郷は日野町黒坂。小学校4年生まで黒坂で過ごした日々を振り返り、著書「安曇野の蝶あづみのちよう」の中でその思いを書き記しています。

田淵行男

学校がひけると、すぐ裏山に駆けつける他ほかなかった。山だけが唯一の魅力みりよくに満ちた遊び場であり、虫や兎うさぎや小鳥などをひっくるめた自然が何よりの遊び相手であつた。

裏山には花崗岩かこうがんの風化による適度な斜面があつた。

松の小枝を敷いて滑るのである。

もう一つは木登りで、これもスリルに満ちたスポーツであつた。

この方はかなり技術を要するので、やや高級な遊びに